令和６年度　自己評価・学校関係者報告書

令和７年５月３０日
御幸幼稚園・さくらんぼ保育園

１．本年度の教育目標

御幸幼稚園
（１）　豊かな人間性の基礎作りをする。
（２）　表現力のある個性豊かな思いやりの心を育てる。
（３）　物事に敏感に反応し、節度ある態度や姿勢を育てる。
（４）　意欲を高め自己発揮できるようにする。
（５）　未来社会を生きる広い国際感覚を養う。
（６）　家庭との連携のもと保育・教育を進める。
さくらんぼ保育園
（１）　子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、乳児期に生きる力の基礎を育む。
（２）　安全に留意し、家庭的な雰囲気を大切にする。
（３）　保育園・家庭・地域が協力して、健全な子どもの育ちを保障する。
（４）　素直でのびのびとした創造性や情操豊かな子どもを育てる。
（５）　きまりを守り、物を大切にする正しい生活習慣を身に付けた子どもを育てる。

２．取り組む目標・計画

○教育課程の改善　○教育環境の整備　○子どもの成長の可視化
○教員の資質向上　○健康と安全

３．評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組みの状況
教育課程の改善	B	幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を踏まえ、教育目標、乳幼児の発達や生活の連続性を考慮し、年間計画、月案、週案、日案、個別の指導計画を立案し行っている。職員相互の話し合いを通じ、子どもの姿や保育内容を捉え直しながら、目指す方向性を明確化し、保育の改善・充実に努めている。
教育環境の整備	B	乳幼児が興味や関心を抱き、好奇心や探求心が呼び起こされるように環境を整え、子どもの心身の発達に必要な様々な体験ができるように努めている。そのために自然環境、遊具、玩具、絵本、素材や用具等を整え、多様なコーナー遊びを設定している。 近隣の公園や、みかん狩り、芋ほり、深北緑地公園、キッズプラザ、キッザニア等の施設にも出かけ、各学年にふさわしい様々な体験を積

		み重ねている。 　自園方式による完全給食を実施するにあたり、給食委託業者との打ち合わせを定期的に行い、より良質な給食の提供、野菜の栽培、クッキング活動等の食育に努めている。
教員の質的向上	A	子どもたちの姿、心身の発達、ねらいに応じた保育内容、行事について、学年会、リーダー会、職員会議、日々の終礼などで計画立案し、共通理解を深めながら教育・保育を進めている。日々の保育内容や子どもの様子、行事の写真やエピソード等を通して保護者に理解を求めるとともに、自らの保育内容を振り返り、充実した保育に努めている。大学の講師を定期的に招聘し、発想力や想像力、自己表現力、社会性、言語能力、活動意欲など多面的な成長につながる具体的な方法や個々の園児の発達の姿、課題についての研修を実施し、理解を深めた。 　積極的に園外の研究会で発表し、公開保育の参観を行うことができた。特に保育環境評価スケール（ECERS）では専門講師を招聘し、ポスター発表、スケールを用いた共同観察、公開保育等を実施し、保育の質を高めることができた。 　保育環境スケール（ECERS）の研修成果として、書籍「保育の ABC 見直しガイド BOOK」の発刊に協力的に関わることができた。
健康と安全	A	「子どもを尊重する保育」のため「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を基に望ましい保育の在り方について研修を深めた。 　園児の安全を守り、楽しく生活できるように、施設、設備、遊具、玩具、園庭等の安全点検を常に行い、園児に危険防止の言葉かけをする等の安全教育を行っている。事故事例やあと一歩で事故につながるような「ヒヤリ・ハット」に該当する事例については記録・分析し、全教職員が共通理解して事故防止に努めている。特に睡眠、プール活動及び水遊び、食事等の場面においては重大事故が発生しやすいことを踏まえて、各場面に応じた適切な対応をとっている。 　怪我や事故、病気が発生した場合は迅速に応急処置を行い、園長に報告し、看護師が視診した上で速やかに保護者に連絡をとり、必要事項を伝えて医療機関を受診する等、適切な処置を行っている。 　交通安全については地元警察と連携し、交通安全指導等を定期的に行うようにしている。 　年間の災害・防火訓練実施計画をもとに様々な災害を想定した避難訓練を行い、子どもたちに命を守ることの大切さや防火意識を高める指導をしている。

評価（A：十分成果があった　B：成果があった　C：少し成果があった　D：成果がなかった）

４．総合的な評価結果

評価	理　由
A	子ども達の健康状態や発育及び発達の状態を的確に把握し、心身の状態に応じた適切な関わりを持つよう心がけている。心身の健康の保持増進を図るために定期的な健康診断を実施し、組織的にアレルギー対応、エピペン、AED 等の研修を行うとともに、適宜「ほけんだより」を発出し、保護者との連携を図っている。 定期的に大学の講師を招聘し、「ユーモアで遊ぶ・かかわる」をテーマに各年齢に合わせた研修を実施し、計画的な取り組みを行った。園内外で研修の成果をポスターにまとめて発表し、他者からの学びを自らの学びにつなげることができた。 数年前から取り組んできた保育環境評価スケール（ECERS）ついても、定期的に全保育者がお互いのクラスをスケールに基づいて共同観察し、子どもの育ちを可視化することができた。その結果を振り返り、まとめとして全保育者で共有することができた。 一人ひとりの保育者がクラスを振り返り、年齢、発達、興味や関心に合わせたコーナーを工夫・探求し、充実させることができた。

評価（A：十分成果があった　B：成果があった　C：少し成果があった　D：成果がなかった）

５．今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
教育環境の整備	子どもたちが落ち着いて過ごせるよう屋内外の環境を子どもたちの発達や状況に応じて整えていきたい。子どもたちが興味や関心をもって主体的に関われる環境を構成し、遊びに必要な物的環境の充実を図り、遊びコーナーを創意工夫していきたい。今後も保育環境と保育実践の質を客観的に捉えることができる保育環境評価スケール（ECERS)の研究・研修を深め、乳幼児一人ひとりが周囲の環境に働きかけ、興味や関心を持って関われるような環境づくりの改善に努めたい。
教員の資質向上	一人ひとりの発達の特性を理解し、個別の対応や集団での活動などに沿って計画的に環境を構成するとともに、カリキュラムを作成し、保育活動をより豊かなものにしていきたい。また、子どもたち自らが、今まで経験してきたことに自信を持つことで自己肯定感を高め、小学校生活に対して期待を持つことができるよう、育てたい能力や資質としての「３つの柱」や自立心、協同性、思考力の芽生えなど「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（１０の姿）をもとに乳幼児の保育の充実を図っていきたい。研修・研究については、自分なりの課題や視点を持って積極的に園内外の研究会、研修会、公開保育等に参加し、学んだことを全保育者で共有しながら自らの保育を振り返り、まとめ、互いに報告し合い、指導力の向上に努めていきたい。

６．学校関係者評価委員会の評価

・子どもがいつも「幼稚園が楽しい」と話している。初めは一人目の子どもなので預けるのが不安な気持ちもあったが、子どもが担任の先生のことを好きだと言っているので今は信頼している。近年重要だと言われている幼児期の性教育を幼稚園でも取り組んで欲しい。
・子ども達を安全、安心に、楽しく保育してくれている。「かがくあそび」を始め家庭ではなかなかできない経験をでき、多くの行事があるのも良い点だと思う。課外での体験を通して多くの経験や成長を得られることも有り難い。
・公開保育に参加したところ、先生方が工夫された場で子ども達が意欲的に活動しており、安心して子ども達を預けられるこども園だと実感できた。
・先生方が愛情をもって一人ひとりの個性を尊重し、たくさん経験できるように導いている。教育プログラムも工夫されており、子どもたちが楽しみながら成長しているのを感じる。
・どのクラスも保育が構造化されていて、視覚提示も多く、子どもが自立して遊ぶことができる環境づくりがされていた。子どもが安心して遊べる空間があったのも良かった。先生それぞれが子どもの表出する気持ちを読み取ってくれているのを見て、その子なりの育ちを考えながら保育が組み見立てられていると思った。
・保育を見学して小さいころから社会性を育てることはとても大切だと感じた。どのクラスも一人で何もせずにいる子が見られず、すごく良かったと思った。
・子どもが興味を持てる遊びを取り入れており、発表会で使用した衣装や道具を工夫して使用しているのも良かった。コストをかけずに保育環境を整えているのを見て、家でも真似をしてみたいと思った。

【学識経験者による評価】

・子どもの育ちに必要な環境のデザインを、リソースを工夫しながら、柔軟に、タイミングよく構成し、その取り組みを振り返るサイクルが確立している。
・内外の有識者などとの連携を意欲的に行い、客観的に取り組みを評価し保育環境の改善が進んでいる。
・保育にかかわる教職員全体として園内の実践研究に関心をもち、積極的な取り組みが継続している。
・保育者の取り組みを子どもの育ちを通して検証し、その検証過程を園内外に公開できている。

※財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。